

日銀短観、市場予想を上回る結果に

ポイント① 一段と改善した景況感

10月2日に発表された9月調査の日銀短観（全国企業短期経済観測調査）によると、大企業・製造業の業況判断DI（ディフュージョン・インデックス、「良い」-「悪い」、%ポイント）は、前回6月調査を4ポイント上回り、2期連続で改善する結果となりました。大企業・非製造業においても、前回は4ポイント上回り、現行基準の2004年3月調査以降で最も高い水準となりました。

ポイント② 販売・仕入価格判断DIは低下

大企業・製造業DIは、原材料価格の上昇が一服したことや、半導体の供給不足が概ね解消したことにより自動車を筆頭に石油・石炭製品など幅広い業種で景況感が改善しました。大企業・非製造業DIは、コロナ禍からの経済再開やインバウンド消費の回復を背景に改善が続きました。このような状況の中、大企業の製造業の販売価格判断DI、仕入価格判断DIはともに低下しました。2022年から続いている値上げラッシュは概ねピークを打ち、一巡しつつあると言えます。

ポイント③ 設備投資計画は更に上方修正

2023年度の設備投資計画は、全規模・全産業で前年度比+13.0%となり、前回6月調査の同+11.8%から上方修正されました。大企業・全産業のソフトウェア投資額計画は前年度比+13.6%となり、設備投資の堅調な計画を下支えしていると言えます。また、人手不足感が強い中堅・中小企業におけるソフトウェア投資の伸びも高く、省力化に向けた投資需要の高さが伺えます。

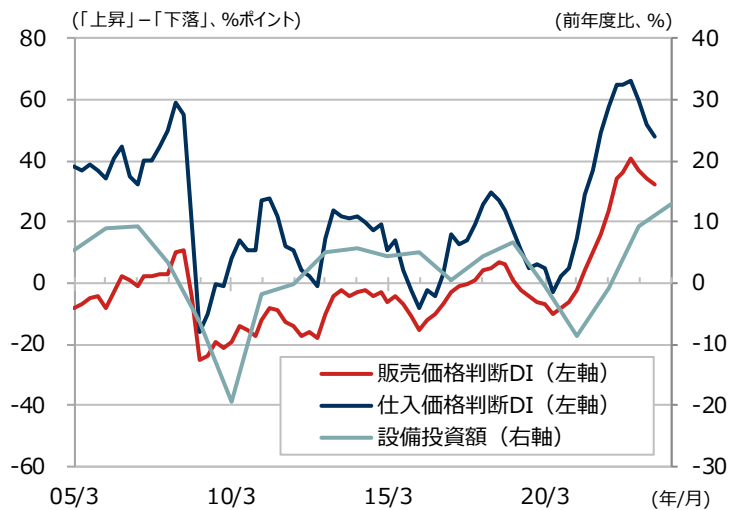
業況判断DI

		2023年9月調査				
		2023年6月調査	最近		先行き	
			変化幅		変化幅	
大企業	製造業	5	9	4	10	1
	非製造業	23	27	4	21	-6
	全産業	13	17	4	16	-1
中堅企業	製造業	0	0	0	2	2
	非製造業	17	19	2	14	-5
	全産業	11	12	1	9	-3
中小企業	製造業	-5	-5	0	-2	3
	非製造業	11	12	1	8	-4
	全産業	5	5	0	4	-1
全規模	製造業	-1	0	1	2	2
	非製造業	14	16	2	11	-5
	全産業	8	10	2	8	-2

(注) 金融機関を除く。「最近」の変化幅は2023年6月調査との比較。「先行き」の変化幅は「最近」との比較。

(出所) 日銀「短観」(2023年9月調査)より野村アセットマネジメント作成
(<https://www.boj.or.jp/statistics/tk/yoshi/tk2309.htm/>)

販売・仕入価格判断DI（大企業製造業）と設備投資額（全規模・全産業）の推移



(期間) DI: 2005年3月調査~2023年9月調査、四半期
設備投資額: 2004年度~2023年度、年次

(注1) 設備投資額の2022年度までは実績値。

(注2) 設備投資額は金融機関を除く。また、土地投資額を含み、ソフトウェア投資額、研究開発投資額は含まない。

(出所) Bloomberg、日本銀行のデータより野村アセットマネジメント作成

重要イベント

10月20日 日本全国消費者物価指数 (9月)

10月31日 日銀金融政策発表